

人生をつなぐ素晴らしい
紫の花<カラーパープル>……

スチーブンスピルバーグ監督作品

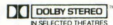
カラーパープル

ピューリッツァー賞受賞/原作アリス・ウォーカー



それは、人生について、愛について、私たちについて…

ワーナー・ブラザーズ映画提供/スチーブンスピルバーグ作品/「カラーパープル」/主演ダニー・グローバー
アトルフ・シーザー/マーガレット・エブリー/レイ・ドーン・チョン/新人ウービー・ゴールドバーグ(セリ)
音楽 クインシー・ジョーンズ/編集 マイケル・カーン A.C.E./美術 J・マイケル・リバ/撮影監督 アレン・ダビオー
原作 アリス・ウォーカー/脚本 メノ・メイェス/製作総指揮 ション・ピーターズ & ビーター・グーバー
製作 スチーブンスピルバーグ/キャスリーン・ケネディ/フランク・マーシャル/クインシー・ジョーンズ
監督 スチーブンスピルバーグ



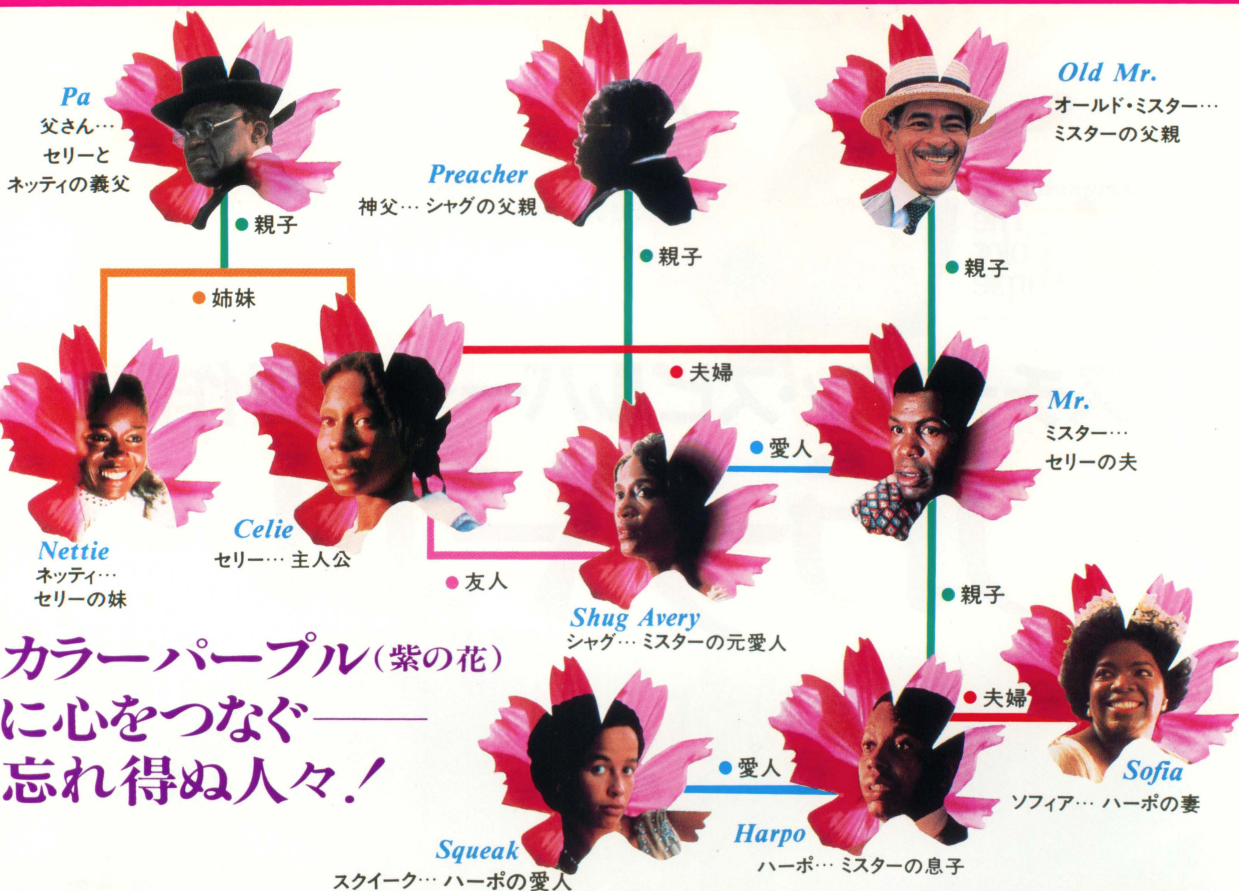
オリジナル・サウンドトラック/ワーナー・バイオレコード

原作/黒英社文庫刊

FROM WARNER BROS.

A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY
©1985 Warner Bros. Inc. All Rights Reserved





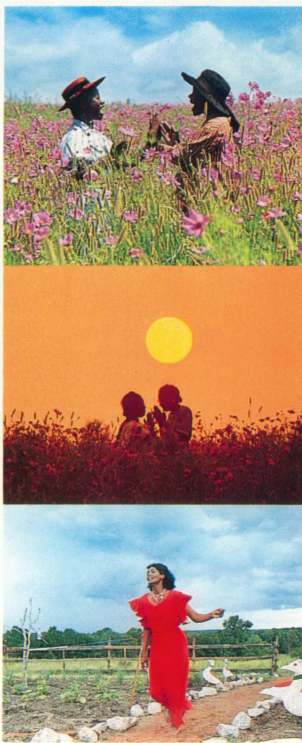
カラーパープル(紫の花)
に心をつなぐ——
忘れ得ぬ人々!

スピルバーグの新しい挑戦!

「ジョーズ」「未知との遭遇」「E.T.」「レイダース」「インディ・ジョーンズ」と、娯楽大作を次々と放ち、若くしてハリウッドの伝説的存在となったスティーブン・スピルバーグが、30代最後の年に敢えて新たな旅に発つ。その作品が「カラーパープル」だ。アリス・ウォーカーによるピューリッツァー賞の問題作が、今、スピルバーグの最もパワフルで個人的な映画としてスクリーンに登場するのだ。

「カラーパープル」は、スピルバーグの言葉を借りれば、「8人のキャラクターたちの、40年間における、精神的危機ととても心豊かな成長を扱っている。」

スピルバーグは何よりも、主人公セリーに心を引かれた。彼女が、やがてひとりの人間として目ざめていく過程にひかれたのだ。「カラーパープル」を何げなく読み始めたスピルバーグは、そのまなざしに読み通した。「ほくは怒った。笑った。その内に泣いていた。セリーの物語が白日の元にさらされていくのを目のあたりにしながら、ほくはすべてを一時に感じとっていた。これはここ何年か読んだ中で最高の傑作だ。強烈に心を揺さぶる…」彼は旅を決意した。



ストーリー

1909年、南部ジョージアの小さな町。そのはずれに住む黒人の一家。自分もまだ子供にすぎないセリーが、ふたりめの子を生んだ。

父親は、セリーが「とうさん」と呼んでいた男だ。病弱のかあさんと暮っていた男だった。とうさんは、次々に生まれた子をセリーの乳房からもぎとってどこかに連れていってしまう。どこにいったのだろう、だれにもわからない。セリーの心の支えは妹のネッティだけ。ネッティはきれいだし頭もいい。ネッティには自分というものがあるがセリーにはない。あるかもしれないが、それを押えてひどい目にあっている。

最初はとうさんに、次はMr.に。Mr.は、やもめで3人の子もち。ネッティを後ぞえにと望んだがとうさんが断り、代りにセリーがやらされた。朝から晩まで掃除して洗濯して料理を作って、きかん気の子供たちの世話をし、Mr.にのしかかられるために。とうさんはセリーをこの男にくれてやったのだ。セリーは思いのたけを手紙につづる。つたない字で。最初は神さまに。やがて、いなくなってしまうた妹ネッティに。いつかきっと会えると信じて。—— そんなある日Mr.が牧師の娘でブルース歌手のシャグ・エプリーを家に連れてきた。

スペイン坂に華麗な劇場がオープン!

今秋ロードショー

特別鑑賞券発売中!
一般¥1200・学生¥1100
ペアチケット¥2100

スペイン坂・ライズ2F
渋谷ピカデリー (464) 0051
上映時間 日・祝 10:00 平日 12:40 3:40 6:40

